

平成 20 年度 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構事業評価監視委員会

議事要旨

[第 1 回 委員会]

1. 日時 平成 20 年 12 月 18 日 (木) 15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所 鉄道・運輸機構 東京支社 8 階 A 会議室
3. 出席者 委員 : 家田委員長、山内委員、屋井委員、竹内委員、梅川委員
4. 議事

(1) 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構事業評価委員会運営要領について

■事務局案は了承された。

(2) 事後評価対象事業に関する対応方針(案)について

■九州新幹線(新八代・鹿児島中央間)事業に関する対応方針(案)について鉄道・運輸機構より説明。

■委員からの主な意見

九州新幹線(新八代・鹿児島中央間)の事業は、事業効率、事業による効果・影響などを審議した結果、事業の主たる目的の達成状況が確認され、当初想定されていた整備効果は、概ね得られているものと判断されたが、以下の意見が出された。

① 評価の基礎要因の変化と要因

- ・総括表の事業費の変化については、スーパー特急からフル規格への変更、八代から新八代への整備起点の変更等の情報も記載しておくべきである。
- ・縮減額の内訳を記載して欲しい。
- ・計画変更の経緯の記述を詳しくして欲しい。
- ・新八代・鹿児島中央間が先行して整備された経緯についても記述すべきである。

② 事業による効果・影響の発現状況

- ・便益分析の箇所の記述は、分析の前提条件等理解できるよう、記述を検討して欲しい。
- ・全線開業に対する地元の懸念等の記述も必要である。
- ・スーパー特急で部分開業し、フル規格で全線開業する場合の、改軌等の困難さについての記述が欲しい。
- ・アプローチ線の整備も非常に重要な要素である。
授受線を活用して費用をかけずに実現したことも追加すべきである。
- ・良い記述が目立つ感じがするので、問題点を工夫等により克服したといった記述も追加

した方がよい。

- ・訪日外国人、事業者の努力に関する記述も追加して欲しい。
- ・鹿児島県の観光が好調のようだが、好調を維持するためには地域の努力が必要といった示唆的な記述も必要と思われる。
- ・観光資源の分布をみれば旅行行動が見えてくるので、観光資源の分布図は熊本・鹿児島県だけでなく九州全体の分布図とした方がよい。
- ・観光に関する内容が少ない感じがする。内容を追加して欲しい。
- ・県内移動に大きな効果が出ているが、県の枠を超えた施策も必要であるので、記述を追加して欲しい。

③ 社会経済情勢等の変化

- ・全体的な観点、社会情勢の変化の背景等を踏まえて記述をして欲しい。

④ 改善措置の必要性

- ・一定の効果が発現しているが、全線開業により当該区間(新八代・鹿児島中央間)にもさらなる効果の発現が予想されるという表現の方がよいと思われる。

⑤ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し

- ・整備新幹線は財源等の制約から分割して整備が進められているが、個別の区間で評価した場合と、全体が整備された状態で当該区間を評価した場合では、B/C等の評価は異なる。今後の他区間の検討にあたっては、そういうことを十分念頭において評価すべきである。

5. その他

- 上記意見を踏まえた資料の修正を行い、2月6日に第2回委員会を開催し、修正内容を審議することとなった。